令和四年　神無月（かんなづき）

むなかた

目次

秋季大祭　3・2
宗像国際環境会議・豊饒祭　4
神宝館特別展　5
沖ノ島清掃奉仕　5
神宝館だより・みこころ　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よって、大谷翔平など数多くの日本人選手が世界で大活躍し皆の心を躍らせている中、皆様はモータースポーツを観戦されるだろうか。F1レーサーは世界で二十四人という極端に狭き門である中、昨シーズンより七年振りに角田裕毅という日本人ドライバーが参戦している。この二十四人に日本人がいることは大変喜ばしい事である。また、F1は運営費も破格でありトップチームになると六〇〇億円を超え、有名なミハエル・シューマッハの現役時代の年俸は一〇〇億円以上といわれる。自動車が誕生したのは約二五〇年前で一般に普及し始めたのは一〇〇年前程である。自動車は時速一〇〇㎞を超える速さを手に入れたが、一〇〇年ではその速さに人間が対応出来ていないと言われる中、現在時速三〇〇㎞を超える世界で戦っているF1レーサーには驚嘆する。自動運転等の技術が進化する中、我々はF1レーサーのようにそれを活かせているだろうか。悲しいことに交通事故は減っても、無くなってはいない。進化する自動車技術を制御するのも一般のドライバーであり、その心持次第である。我々神主は日々皆様の交通安全祈願祭を奉仕している。どうか大神様の御加護がありますよう祈るばかりである。（宗）

主基地方風俗舞

秋季大祭

十月一日から三日まで秋季大祭が斎行される。

昨年、一昨年はコロナ禍の社会情勢を鑑み、秋季大祭諸祭典・神賑行事について、行程の変更・中止を余儀なくされた。特に秋季大祭の幕開けを飾る「みあれ祭」は、密を避ける感染対策の為、御座船二隻、先導船二隻での海上神幸となり、輦台を担いでの陸上神幸も中止された。

本年の秋季大祭に際しては、未だにコロナの終息には程遠い状況ではあるが、社内・関係団体等で会議を開き、なるべくコロナ禍以前の状態に戻し、全祭典行事が執り行えるよう議論を重ねた。

みあれ祭に関しては、感染対策を取った上で、御座船・先導船・供奉船等各奉仕船が出港し、三年ぶりに勇壮な海上絵巻が繰り広げられる。又、陸上神幸も若干の変更はあるものの、概ね例年通り行う事となった。

当社の年間最重儀たる例祭が斎行される二日は、神賑行事として「流鏑馬神事」、喜多流「翁舞」の奉納も例年通り行い、三日の高宮神奈備祭を以って秋季大祭の幕を閉じる。

みあれ祭

高宮神奈備祭

翁舞

第九回 宗像国際環境会議
『常若 生命(いのち)の源泉』

今年で、九回目を迎える宗像国際環境会議。十月二十六日から二十八日の三日間の日程で開催される。

これまで同会議で提言し続けている「常若」。これは日本人の自然観・文化文明論から見いだせる持続可能な社会を実現するためのヒントを示唆している言葉である。このキーワードを中心に据え、多様な業界から有識者にご出演いただき三日間で九つのセッションを開催し、議論していただく。

初日(二十六日)は、世界遺産と環境問題、そして海の変化に対する取り組みについて。二日目(二十七日)は環境問題の現状を認識し、現代の技術をもってどのようにしてアプローチしていくか。そして新しい社会の仕組み作りについての議論。三日目(二十八日)は資本主義社会のなかで、生命の源である自然とどのように向き合うべきなのかを考え、海岸清掃と竹漁礁作りを行う。

また期間中は、地元中高生向けの育成プログラムが開講され、世界の第一線で活躍する様々な分野の講師陣による特別講話を通じて、多様な文化、価値観を受容し、国際的な視野を持った豊かな人材の育成を目指す。

オンライン視聴の申し込みは
左記のホームページより
宗像国際環境会議
https://www.munakata-eco.jp/

MUNAKATA ECO
海の鎮守の森プロジェクト
宗像国際環境会議

豊かな自然を願って
豊饒祭

平成二十九年十月二十九日、天皇皇后両陛下御臨席のもと、宗像市にて開催された第三十七回全国豊かな海づくり大会福岡大会。宗像の有史以来、初めてのこの慶事を継承すべく、当社では毎年十月二十九日を「豊饒祭(ほうじょうさい)」という祭日、記念日とし、豊かな海、山、川、田畑を願う日として、後世に伝えるために実施している。

またこれに併せ、豊かな海づくり大会のために整備された鐘崎漁港にて、水産資源の保護・管理の大切さを広く伝えるため、豊饒の海を願う稚魚の放流行事も行っている。

令和四年十月二十九日(土)
豊饒祭　十一時　宗像大社辺津宮
稚魚放流行事
十二時三〇分　鐘崎漁港御製碑前

神宝館特別展　造心 ― つくるこころ

十月一日、当社神宝館において特別展「造心　唐津焼中里太郎右衛門展」が開幕した。

本特別展では「古唐津」から十四代（当代）までの中里家に伝わる歴代の作品約五十点を一堂に展示する。

約一三〇〇年前の国宝を現代に見事に蘇らせた歴代の中里太郎右衛門に受け継がれた「造心」を感じて頂ければ幸いである。

期　間

第一期　令和四年十月一日～令和四年十二月四日

第二期　令和四年十二月七日～令和五年二月五日

※十二月五・六日は展示替の為、三階を閉鎖します。

場　所　宗像大社神宝館三階

唐津焼

唐津焼は、桃山時代から肥前地区一帯で作られた陶器の総称。慶長年間（一五九六～一六一五）には最盛期を迎えるが、その後窯数が減少し、一部の御用窯で継続されてきた。

江戸時代には、藩命で御用窯が坊主町から唐人町（現在の中里太郎右衛門陶房の敷地内）に移され、そこから将軍家などに献上されたため、装飾性が高い斬新なデザインへと変化し「献上唐津」と称されてきた。

明治以降は藩の庇護を失い衰退しますが、十一代中里天祐の細工物の置物などが唐津焼として作られ、昭和初期には、十二代中里太郎右衛門が古唐津の古窯跡からその技法を復活させ、唐津焼が再び勢いを見せる。

中里無庵（十二代）は唐津焼の復興が評価され、重要無形文化財（人間国宝）に認定。中里逢庵（十三代）は芸術性の高さが評価され、日本芸術院会員に就任。現在は、十四代中里太郎右衛門にその伝統が受け継がれている。

沖ノ島清掃奉仕

八月三十日（火）宗像大社氏子青年会による恒例の沖ノ島清掃奉仕が行われた、会長中野順氏ほか会員十六名は午前十時に来島し、参拝の後、社務所の外壁塗装や参道の清掃をご奉仕頂いた。過去には現地大祭が斎行されていた五月に行っていたものの、今年度は秋季大祭の神様迎え神事に合わせて行われた。綺麗になった境内の中、粛々と神事が執り行われ、秋季大祭を迎える事となる。暑くお忙しい中、平日にも関わらずご奉仕を頂いた会員の皆様に感謝を申し上げたい。

神宝館だより 66
八万点ノ国宝収蔵

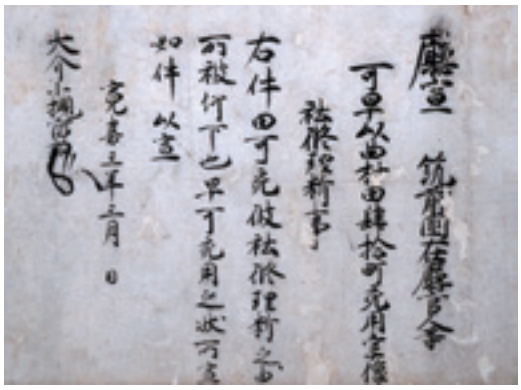
筑前国司庁宣
社殿造営の記録

社殿の造営や修繕には、当然ながらその費用が必要になってくる。先に取り上げたように、宗像社では時に幕府の補助等も受けながら造営を執り行ってきた。

古く、当社の修理料の一部は「寄物」で賄われてきた。「寄物」とは遭難船から流失した漂流物、漂着物等のこと。寄物の取得権は芦屋津（現・遠賀郡芦屋町）から新宮浜（現・糟屋郡新宮町）までとされ、広範囲に及ぶ宗像社の権威がうかがえる。しかし寄物の取得や利用は、寛喜元（一二二九）年頃、鐘崎に海難防止のための孤島が築かれることになった際に朝廷より停止させられた。

史料はその後、寛喜三年に出された筑前国司庁宣である。国司庁宣は、口頭で出された命令（「宣」）を国守から配下の国司や在庁官人（現地の政庁で行政の実務を担った役人）等に伝える文書。内容は「曲村田四十町」を宗像社の修理料所に充てるとするものである。曲村は現在の宗像市曲付近。この修理料所は寄物の利用を禁じた代わりに与えられており、権益を奪うばかりでなく、その補填も行われたことが分かる。

ただ宗像社は末社も七十五社もあり、そもそも東郷の百五十町分をお願いしたのに、という不満も他の史料に表れている。寄物の取得も実際には戦国期まで続いているなど、必要な造営費を確保するための苦労がしのばれる。（津）



みこころ

暑さも和らぎ爽やかな秋風の吹く過ごしやすい季節となりました。当社では、十月一日から三日間、秋季大祭が執り行われます。秋季大祭は五穀豊穣と海上安全・豊漁を感謝するお祭りです。三年ぶりに例年通りの斎行となる秋季大祭に向けて、皆様に快く参拝して頂けるよう準備を行って参りました▼去年よりも慌しくなったこの時期は、どこか嬉しく新鮮な気持ちで準備に取り組むことができました。私は今年度で入社して二年目ですが、コロナ禍での入社となりまだ経験出来ていないことが沢山あります。コロナが落ち着きを見せている今、祭典行事・舞奉仕を行う機会が増えることと思います。一つ一つ丁寧な所作を心がけ奉仕を行い、今後沢山の方々とお会いできることをとても楽しみにしております。（三）

第734回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切（順不同）

ランドセルがまるで歩いてゐるやうな感じのすなり小学一年生　佐々木和彦

微笑ましい情景だ。小学一年生と作者の関係（孫など）が分かると更に作者の気持ちに添って読めるだろう。

友といる交歓でしょう透きとおる流れに鮎は泳いでいます　山﨑　公俊

清流に棲む鮎が楽しそうに見えたのは作者がコロナ禍で友人と会う機会が減っているからだろうか。三、四句の水の描写が的確で快い。

海風に島の歴史が駆登る砲台跡にたつ草熱（くさいきれ）　早川　祥三

砲台跡の夏草に島の歴史を思った作者。三句の「駆登る」はやや無理があるので〈よみがえる〉あるいは二句から〈～歴史を思いたり〉としては。

毬栗を鍋（なべ）で煮（に）ながら弾（はじ）く音栗（おとくり）の旨（うま）さは九月の味よ　秋吉　嘉範

「栗の旨さは九月の味」という栗好きらしい発見が良い。毬ごと茹でるわけではないと思うので初句・二句を〈毬を出て鍋で煮られて〉としては。

雨あがり庭木にひそむ蜘蛛の巣は朝陽をうけてティアラとなりぬ　東　雅子

滴をまとう雨後の蜘蛛の巣が美しく詠まれている。二句「庭木にひそむ」は〈～にかかる〉とあっさり詠む方が「ティアラとなりぬ」が引き立つだろう。

炎天下白い日傘のように咲く初雪草（はつゆきそう）は初盆の使者　本田エリナ

母の初盆を迎えた作者。初雪草がお盆が近づいたことを教えるのだ。作者は初盆に意味を感じているのだと思うが結句を〈お盆の先触れ〉としてもいい。

硬貨出す手間をいといて増す重さ気づきておれど又札を出す　吉﨑美沙子

買い物で端数を硬貨で出すと釣り銭で財布が重くならずに済むのだが、億劫でついお札を出す作者。少しお疲れ気味なのかもしれない、ご自愛を。

◆選者詠

台風が過ぎたる街の風すずし酷暑の日から十日経たねど

コロナ禍で人出すくなき天神の椽の葉ゆらすはつあきの風

第704回　俳句

松瓔瓔と紫陽花寺の花手水　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名（令和四年八月）

（順不同・敬称略）

七〇、〇〇〇円

堺　市　大谷のり子

三〇、〇〇〇円

福岡市　大神　文三

一〇、〇〇〇円

知立市　加藤　久和
名古屋市　安田　道弘
宗像市　中西　常道

五、〇〇〇円

市川市　万歳　裕之
神埼市　齊藤　好昭
熊本市　喰田　克哉
合志市　松林　雅嗣
合志市　木柑子　勝
長崎市　峯　富美子
西彼杵郡　土井　和弘
広島市　澤村　享子
広島市　大友　愛理
福岡市　清田　光彦
福岡市　石川　祐二
福岡市　龍崎　美香
和歌山市　佃　俊雄
和歌山市　佃　理予

三、〇〇〇円

大阪市　福地　昭義
豊中市　中井　朗代

二、〇〇〇円

尼崎市　茂利田　健
藤井寺市　巳波　節子
築上郡　入江聖奈子
名古屋市　高松　正
西宮市　前川　千景
福岡市　中元千代美
箕面市　五十嵐典子

むなかた
神無月（かんなづき） 第741号
2022年10月1日発行(月刊)／宗像大社 〒811―3505 福岡県宗像市田島2331 電話(0940)62―1311(代) https://www.munakata-taisha.or.jp/

10月 まつりごよみ

1日	みあれ祭・辺津宮入御祭	
2日	例祭	午前11時
3日	高宮祭、第二宮第三宮祭	
	宗像護国神社秋季大祭	午前10時
	秋季総社祭	午前11時
	南坊流献茶祭	午後 2 時
	高宮神奈備祭	午後 6 時
10日	沖津宮秋季大祭	午前 9 時
	中津宮秋季大祭	午前11時
15日	総社月次祭	午前11時
	引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	
17日	表千家 献茶祭	午前11時
29日	豊饒祭	午前11時

編集後記

先月九州に上陸し、その後本州を縦断した台風十四号。超大型台風として上陸した各地で大風や大雨、沿岸部では高潮などの猛烈な被害をもたらした▼福岡県は九月十八日・十九日で最接近・上陸した。私は、沖ノ島勤務していたが最初に抱いた感情は「恐怖」であった。そして台風が過ぎ去った後、異常がなかった時の「安堵感」は今までに感じたことの無いものであった▼「ジオストーム」という洋画をふと思い出した。異常気象や自然災害に対処すべく人類が協力して気候コントロールの衛星を開発するが、衛星そのものが暴走をはじめ大災害が頻発し、開発者の科学者が宇宙へ飛び解決していく。という話である▼映画の世界ではあるが、最新の技術をもってしても気象やその他自然界の現象には、未だ明かされていないことがあり、人間の力の及ばない部分が多くあることを描写している▼自然の恵みを受け、その中で「生きている」ではなく「生かされている」を身をもって勉強した沖ノ島勤務であった。（黒）

宗像大社